

令和4年度第1回富山県環境審議会 大気騒音振動専門部会議事要旨

1. 日 時 令和4年9月27日(火) 午後2時～3時30分
2. 場 所 富山県民会館 702号室
3. 出席者 委 員：西川部会長、田中特別委員(リモート出席)、青木専門員、
成瀬専門員、長谷川専門員、本江専門員(リモート出席)、
渡辺専門員
事務局：林生活環境文化部次長、中山環境保全課長ほか

4. 議 事

- (1) 大気騒音振動専門部会長の職務代理者の指名について
環境審議会特別委員の田中富山地方気象台長が職務代理者として指名された。
- (2) 富山県大気環境計画(ブルースカイ計画)の改定について
事務局より資料1について説明が行われた。
- (3) 富山県の大気環境に関する現状と課題について
事務局より資料2、資料3及び資料4について説明した後、意見交換等が行われた。
- (4) 次期富山県大気環境計画の骨子案について
事務局より資料5について説明した後、意見交換等が行われた。
骨子案をもとに、委員の意見を踏まえて計画素案を策定することについて了承された。
- (5) 今後のスケジュールについて
事務局より資料6について説明が行われた。

【意見・質疑応答】

○ 富山県の大気環境に関する現状と課題について

(委員)

アンケートについて、「きれい」と「さわやか」の違いが分かりにくい。また、「10年程前と比べてどうか」の設問も、前回調査と今回調査では比較対象の年が異なり、結果を比べられるものではない。

アンケートは参考資料にはなるかと思うが、評価指標には向かないのではないかと。

(委員)

アンケートを回答する方の年齢により大気環境の感じ方も変わってくると思う。アンケートの年齢構成についても整理しておいた方がよい。

(部会長)

今回は前回からの継続性を持たせたアンケートということでこのような設問になっているところあり、ご理解いただきたい。年齢構成については整理の上でコメントを追記しておいてほしい。

指標として分かりづらいということについて、例えば立山連峰が年間何日見えたとか、そういう指標もあるのではないかと。

(委員)

大気汚染物質等の環境基準の「達成」という表現について、実際は基準内を維持しているという意味だと思う。「達成」というと、「成し遂げた」というように聞こえ、違和感がある。

(事務局)

現状は環境基準を下回っている状況を維持しているところであり、表現については検討してまいりたい。

(委員)

光化学オキシダントだけが環境基準を超過しているが、全国と比較してどうか。

(事務局)

全国における総観測時間に対する環境基準の0.06ppmを達成した割合は約95%前後となっている。本県での環境基準を達成した割合は、直近では95.6%から99.3%となっており、全国値より若干高い状況である。

計画の内容の検討にあたっては全国の状況等も踏まえたうえで整理してまいりたい。

(委員)

全国的に見ても大気環境は改善していると思うが、光化学オキシダントについては全国的に改善していない状況である。

(委員)

富山県の光化学オキシダントの特徴は、1時間値が5月に最も高くなる傾向にあることである。都心部だと7・8月に高くなる傾向にある。今年6月下旬に太平洋高気圧に覆われて暑くなった日があったが、その日の光化学オキシダント濃度は富山県内では0.05ppm程度であったのに対し、埼玉県で0.15ppmを超える値を観測するなど、大きく違う傾向が見られた。

光化学オキシダントに対する県民の理解度の話があったが、このような違いについても伝えられたらよいのではないか。

(委員)

日本海側では、黄砂などにより春頃に大気が最も汚れるイメージがあるが、ここ5年10年、梅雨の晴天時に大気の汚れのピークが見られることがあり、少しピークがシフトしているように感じている。

(委員)

梅雨時期の太平洋高気圧に覆われる前、越境汚染の影響を受けやすいときに光化学オキシダント、PM2.5、黄砂の濃度が高くなってきているという実感がある。

(部会長)

光化学オキシダントが高濃度になるメカニズムは完全に解明されているわけではないが、本計画の内容としては光化学オキシダントの環境基準達成率を向上させるべく国とともに対策を講ずるといったところだと思う。

そういった中で、研究結果として富山県の光化学オキシダントの特徴が出たら、県へ情報提供してもらえるとありがたい。

(委員)

富山県に限らず、全国的に光化学オキシダント対策を実施しているが、それにも関わらず光化学オキシダント濃度はあまり変わっていないということか。

(部会長)

光化学オキシダントの生成に、NO_x寄与とVOC寄与のどちらが大きいかといったことや、その地域ごとの違いはあるのかといったところが、現在の研究における重要なテーマとなっている。

(委員)

これ以上光化学オキシダント濃度を高くしない努力で止まっていて、どうやって減少させていくかが課題である。

(部会長)

大気汚染物質の予測解析の中で、一番精度が悪いのは光化学オキシダントである。今後の研究の進展も含め、推移を見ていく必要がある。

○ 次期富山県大気環境計画の骨子案について

(委員)

前回と比べてあまり変わっていない印象を受けるが、県として何を目玉にしたいと考えているか。

(事務局)

県ではカーボンニュートラルの実現に向けた戦略を今年度中に取りまとめることとしている。大気汚染対策はカーボンニュートラルの実現に向けても重要な取組みの一つとして位置づけられると考えられ、その内容を踏まえたものにしたいと考えている。また、SDGsの観点も盛り込んだ計画にしていきたいと考えている。